



愛犬とガバナー訪問のちょっと一息

月信10月号

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① ガバナーメッセージ | ⑦ 第3分区 IM |
| ② 国際奉仕フォーラムディスカッション | ⑧ 地区研修委員会 |
| ③ 米山記念奨学生親睦交流会 | ⑨ 財団委員会通信 |
| ④ 第2分区 IM | ⑩ 地区主要行事予定(10月・11月) |
| ⑤ 第5分区 IM | ⑪ 新入会員紹介・訃報 |
| ⑥ 南雲年度結団式 | ⑫ コーディネーターニュース |
| | ⑬ ハイライトよねやま |

国際ロータリー第2560地区
2023-24年度

米山ガバナー事務所

〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町1574
ホテルイタリア軒B1

TEL: 025-222-2561 FAX: 025-222-2565



ガバナーメッセージ 「実りの秋を迎えて」

2023-24 年度 ガバナー

米山 忠俊 (三条北 RC)

長かった残暑もようやく落ち着き爽やかな風にいよいよ秋の訪れを感じます。実りの秋、私の好物の果物が沢山並び、まさに「天高く馬肥ゆる秋」です。そういえば、今年の夏は我が家の庭であまり蝉の鳴き声を聞かなかった事に気付きました。どうしたのだろうと少し淋しい思いもありましたが、気が付けばガバナー公式訪問も半分のクラブで終わっており、忙しい日々を過ごしていたため気が付かなかったのだと自分を納得させた次第です。今年は旅行にもどこにも行けず、家族には申し訳ない気持ちもありますが、その中でも妻と長男、ダックス犬のクーちゃんと一緒に猛暑を乗り切りました。

10月12日(木)の地区大会記念親睦ゴルフ大会、11月4日(土)・5日(日)の地区大会に向けて頑張っておられる役員の方々の多忙な日々感謝しつつ、私も忙しく過ごしております。

これらの大きな行事が滞りなく成功する様に、地区の方々の一層のご協力を宜しくお願い致します。

9月13日(水)は柏崎ロータリークラブの公式訪問に原ガバナー補佐、石黒地区幹事と伺って来ました。会場から日本海が眺められました。その時に、数年前に亡くなられた植木年度の植木ガバナーの事を懐かしく思い出していました。日本海で打ち上がる柏崎の大花火大会に植木さんから招待を受けたのです。宮田地区幹事、品田地区筆頭副幹事、そして第一分区から七分区、私の同期ガバナー補佐というメンバーでした。皆さんとは一緒に活動し沢山の思い出がありますが、あの花火見物は最高に素晴らしく、ずっと心に残っています。柏崎ロータリークラブの公式訪問は、米山年度を天から見守って下さる植木さんの気持ちを感じながら終わりました。

ロータリークラブに入会する事で、色々な人達と沢山出会う機会に恵まれます。その出会いが生涯の友になる事もあります。何年も会っていなくとも、再会すればいつもの気持ちに一瞬に戻れる、気負いなくなんでも話せる、自分の幸せを心から喜んでくれる等々、私は友は宝物だと思っています。沢山の出会いを作って行きましょう。ロータリアンで良かったと思える出会いを大切にしていきたいと思います。



国際奉仕フォーラムディスカッションを開催しました

国際奉仕委員会
委員長

徳永 昭輝 (新潟 RC)

昨年度に続き、国際奉仕フォーラムディスカッションを令和5年8月20日(日) ANA クラウンプラザホテルで開催しました。

今回は米山ガバナー、南雲ガバナーエレクト、地区ローターアクト代表(長岡東 RAC:星野洸太)、白根 RAC 会長(金井結)に参加いただき、また新潟 RC のグローバル奨学生の遠藤悠さんにも参加していただき、開催することが出来ました。

米山年度における地区の活動方針①海外友好・姉妹クラブ活動、②グローバル補助金事業活動について報告があり、グローバル奨学生の遠藤悠さんからもお話を聞くことが出来ました。また、国際ロータリー世界大会への参加も地区として多くの会員が参加できるように活動することが確認されました。

1. 海外友好・姉妹クラブ活動報告

- ① 新潟南 RC (片桐豊): 26年前から姉妹クラブとして親交を深めてきた台湾「台中南屯 RC」と協力して、プロジェクト(人道的プロジェクト)「巡回医療車と遠隔診療機器を含む最新医療設備の導入による、南投山地の医療提供改善プロジェクト」に取り組んだ: 地域住民は遠隔医療機器を活用して、埔里キリスト教病院から専門医の適切な診療ができる。
- ② 三条 RC (船越良則): 台湾新竹城 RC と 18年間友好活動をしている。三条地域の大水害があり姉妹クラブの締結が遅れたが、互いの親睦を大切にし、誠実な友情を築き国際奉仕の推進を図るとし、交代でお互いのクラブを訪問している。コロナ禍で交流事業が中断しているが、今できる形を模索しながら発展できるように活動していきたい。
- ③ 新潟 RC (徳永昭輝): 香港島東 RC と 1973年3月7日姉妹クラブ締結、親善ゴルフ大会や共同国際奉仕活動に取り組み、ウラジオストック RC と共同で少年野球チーム支援などにも取り組み交流を深め、ハバロフスク RC、ウラジオストック RC の創立支援などにも取り組みなど姉妹クラブと共同で取り組んだ活動について報告があった。香港島東 RC は 2024年に創立70周年を迎える。

2. グローバル補助金事業・地区補助金事業報告

- ① 新潟中央 RC (高尾茂典): 2015-16年度グローバル補助金プロジェクトに初めて参加し、2年目からは地区主幹クラブとしてグローバル補助金事業に取り組み、地区の多くのクラブ

に呼びかけ、3年目から被援助国・タイ国シーロム RC（第 3350 地区）と、援助を求める地域や医療機関が必要とする医療機器等について意見交換を重ね、地区財団への申請一承認まで取り組んできた。多くのクラブの協力を得てグローバル補助金事業は総額 1 億円に達した大きなプロジェクトとなっている。今年度は水戸南 RC から参加の打診もあり今後ともこのプロジェクト事業に取り組んでいく。

- ② 新潟西 RC（大澤力）：タイのメーチャン RC と「ドイ・ジョラケ丘陵の環境保全」グローバル補助金プロジェクトについて話され、このプロジェクト立ち上げのきっかけは地区補助金奨学生の“ロータリー学友からの 1 通のメール”であった。プロジェクトの概要は、1) 29 村の為のワークショップ、2) 50km の防火帯構築、3) 10km のジョギングトレイル構築と標識の作成、4) 森林歩行パトロールで、このプロジェクトはクラブのビジョン・行動計画に提起していた、日本で初めての環境分野での人道的奉仕、ロータリー学友や現地ロータリアンとの長いお付き合いの中で取り生まれ、プロジェクト完成時にはクラブが 50 周年を迎える、青少年交換にタイ（第 3360 地区）という選択肢が出来たとまとめられた。
- ③ 高田 RC（高坂光一）：スリランカ国アイバンク協会への物資サポートを通じて、世界の失明のリスクを抱える多くの患者の方々に希望の輪を広げることを目的に取り組んでいる。2019 年、クラブの会員（眼科医：石田誠夫）が長年にわたり個人で同協会の支援に取り組んでいたことがきっかけでクラブの事業となった。新型コロナウイルス感染による入国制限も緩和されたので、スリランカアイバンク協会と直接意思を交換できる機会を持つ計画を始めた。また、高坂さんが取り組んでいるポリオ撲滅に向けた国際奉仕活動についても話された。

3. 国際大会への参加を

委員長から、シンガポール国際大会に多くのロータリアンが参加できるように会員に向けて情報提供を行っていく。米山年度の参加目標は 30 人。



ロータリー国際大会

2024. 5. 25. ~29



4. 2016 - 17 年度グローバル補助金奨学生

**グローバル奨学生
遠藤悠先生**

**奨学金でノースカロライナ大学チャペルヒル校
公衆衛生博士号取得**

**現在、
ジュネーブWHO本部
感染症の国際的流行の予防
プロジェクトチームで
国際的枠組み、システム構築**







米山記念奨学事生 親睦交流会 報告

米山記念奨学委員会

委員長

渡邊 嘉子 (新津中央 RC)

皆様には日頃より米山奨学事業にご理解をいただきましてありがとうございます。

8月27日から30日にかけて「米山記念奨学生親睦交流会」を奨学生24名・カウンセラー・地区米山委員総勢52名参加で開催いたしました。

この行事は、奨学生とカウンセラーさん、奨学生同士、またカウンセラーさん同士が交流、情報交換等をし、絆を深め繋がることを目的・機会として毎年開催しております。

当日は35度を超える猛暑日となり、バスを降りて歩くたびに汗をかきながらの2日間で17,000歩という過酷な旅となってしまった面もありますが、奨学生が寝食を共にして語らい交流する唯一の機会である親睦交流会です。参加した皆さんから「楽しかった」「また参加したい」などのご意見が多く聞かれました。

次ページより、奨学生・カウンセラーさんの感想を掲載しましたのでご覧下さい。

今後とも米山記念奨学事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。









《奨学生の感想》

周 燕妮 (シュウ エンジ)

世話クラブ：長岡西 RC 学校：長岡技術科学大学 国籍：中国

この度は、第 2560 地区米山記念奨学会親睦交流会への参加の機会をいただき、誠にありがとうございました。会津での二日間は短い期間でしたが、非常に充実した有意義な時間であり、多くの新たなことを学び、体験し、楽しむことができました。

一日目には、さざえ堂、会津武家屋敷、末廣酒造や鶴ヶ城に見学し、日本の歴史や伝統文化についての知識を深めることができました。夕方には東山温泉と美味しい和食を楽しみ、体力の疲れも癒されました。その後の親睦会では、皆さんと多くの意義深い対話を交わし、お互いの仲がより深まりました。二日間に座禅やそば打ちを初めて体験し、特に座禅において心の平穏さを感じました。これが今後の生活習慣の一部となるかもしれません。

たったの二日間でしたが、日本やロータリー米山記念奨学会に対する理解が深まると同時に、他の参加者との交流も一層深まり、大変勉強になりました。また、ロータリー米山記念奨学会の独自の魅力と力に触れ、ロータリー米山記念奨学会が築いたネットワークが世界を結びつける力を実感し、平和の世界への貢献への強い感銘を受けました。これからも奨学生として、この貴重な経験を生かし、ロータリアンのように平和の世界に貢献する一員として、お役に立てることを心から願っています。

劉 自振 (リュウ ジン)

世話クラブ：三条北 RC 学校：長岡技術科学大学 国籍：中国

先日は米山記念奨学生親睦交流会に参加して皆さんと非常に有意義な時間を過ごすことができました。博士になってから研究生活が忙しくなり、普段はなかなかこういうチャンスがないです。今度の親睦交流会を通じて、ただの旅の楽しさを感じるだけではなく、日本の歴史や文化についても学び、皆さんと深い交流をすることができました。普段はカウンセラーやクラブの皆様と交流して視野が広がり、皆さんのやさしさを感じましたが、今回の親睦交流会で米山という大家族の方々により多くのコミュニケーションをとることができ、たくさんの友達ができて、改めてこの大家族の温かさを感じることができました。大家族の一員として、こういう温かさや愛をより多くの人に伝えていきたいと思いました。このように、誰も他人に真心を持って接することができれば、この世界をより良い方向に変えることができると思います。留学生としての私は将来に研究者として母国と日本の架け橋になりたいと、文化交流や相互理解を促進することに自分の力を貢献したいと思います。今回の親睦交流会からたくさんの収穫がありました。親睦交流会を開いていただき、本当にありがとうございました。

《カウンセラーの感想》

米山記念奨学生カウンセラー 田邊 君男（柏崎 RC）

今回の交流会を通じて感じたことは、一つ目は奨学生の皆さんは交流会を本当に楽しんでいました。積極的に参加者の皆さんとコミュニケーションをとり、将来の夢、目標等をしっかりと語り、このまま日本で働きたい、何か役に立ちたいと思う奨学生が多く、有難いと思うと同時に、今回の機会を準備して頂いた委員会他関係者の皆様には感謝しかありません。

二つ目はそれぞれの国の歴史をしっかりと学び、歴史観を理解する大切さ感じました。白虎隊士が自ら命を絶ったという事について、担当の奨学生はなぜ、どうしてそんなことをしたのか。真剣に私に聞いてきました。私の説明で納得してもらえたかは分かりませんが、その後もバスの中でお互いの国の歴史について話をする機会ができ私の方も勉強になりました。自国が侵略され植民地にされた。約 200 年前に独立をはたした。その後の戦争で国土半分を割譲された。多くのつらい犠牲のもと、ようやく平和な今がある事。日本も敗戦までは同じような事を繰り返してきた事。正しく自国の歴史を学び、受け止め、他の国の人に今の“平和日本”の姿を知ってもらう事の大切さを痛感しました。

ロータリークラブ会長 古川 聡（新井妙高 RC）

米山奨学生の親睦交流会に初めて参加させていただきました。正直言って出発前は様々な国から来られている留学生の皆さんときちんとコミュニケーションをとれるか不安でしたが、明るく素直で前向きな留学生の皆さんのおかげで初日のうちに不安が解消され、楽しい二日間でした。

私たち日本人にとって会津若松市は歴史の趣の豊かな感慨深い町ですが、戊辰戦争の知識を持たない留学生たちが理解出来るか心配でした。しかし、彼らなりに興味を持って理解しようと努力していたように感じました。特に座禅や弓道の体験は彼らを非常に喜ばせました。他にも蕎麦打ちや赤べこの絵付け体験にも楽しそうに取り組んでいました。

留学生が日本を理解する手助けをするのが親睦交流会の目的だと思っていましたが、終わってみれば私自身の留学生に対する理解がかなり深まったと思います。交流会を通じて、米山奨学金事業の意義を今までよりも深く理解する事が出来ました。今後もこの事業が末永く続いて、日本と外国の相互理解と親睦が益々深まってほしいと願っています。



第2分区 IM の開催を終えて

第2分区ガバナー補佐

田村 修 (新潟西 RC)

2023年9月2日、ホテルオークラ新潟に於いて第2分区のIMを開催いたしました。吉村IM実行委員長の企画に沿って万全の態勢で挙行いたしました。

基調講演は、えちごトキめき鉄道株式会社 代表取締役 鳥塚 亮社長をお迎えして「ローカル鉄道を上手に使うって地域活性化」と題してご講演をいただき、アトラクションでは桐朋学園大学の学生3人による素晴らしいバイオリンとピアノの演奏を堪能しました。

懇親会では佐渡南の会員さんから飛び入りで佐渡おけさと、相川音頭を披露してもらい、又、同じく会員の佐渡商工会長より10月の鬼太鼓のイベントと、会長エレクトからは、来年の佐渡南ロータリークラブ50周年式典の予告が紹介されました。

新潟北ロータリークラブの次年度ガバナー補佐の山崎さんと高橋会長からは、2024年9月7日にIM開催のご挨拶をいただきました。最後に、久しぶりに大きな輪になって「手に手つないで」を合唱して閉会となりました。

今回のIMを通じて新潟西ロータリークラブ会員が一つになれたと感じた事と、ここ一番の秘めたパワーとチームワークを実感しました。10月のライラ研修会と来年のクラブ50周年事業に弾みをつけ、無事終了することが出来ました。





第5分区 INTERCITY MEETING 報告

長岡東ロータリークラブ IM 実行委員会

2023 - 2024 年度 新潟第5分区インターシティーミーティング(IM)は、「CREATE HOPE ロータリーの心で友情を深めよう」をテーマに、令和5年9月9日(土)14時より、ホテルニューオータニ長岡 NC ホール(懇親会は白鳥の間)にて、鈴木 重彦パストガバナーをお迎えし、137名の参加のもとで開催されました。

全体会は、原 信博ガバナー補佐の点鐘で開始され、伊丹 敏彦 IM 実行委員長により力強い開会宣言が行われました。

上村 宏 ホストクラブ会長から、今回の IM テーマの趣旨の説明、講演会においては雪国の地域性を生かした取り組みをテーマに伊藤親臣様より講演いただくこと、懇親会におきまして会員相互の友情を深め積極的に交流していただきたいこと、IMによって第5分区7クラブの友情がより一層ロータリーの心をベースに深まることを心より祈念するとの歓迎の言葉がありました。

また原 信博ガバナー補佐から、会員相互に一人一人が大切にしている価値観を尊重し合い、違いを個性特性ととらえて、クラブ活動を推進していく第5分区でありたいとの考えが述べられ、今回の講演がネガティブととらえてしまいがちな雪を活用して暮らしを豊かにしていくチャレンジングな研究取り組みをテーマとしていること、懇親会では、ご当地アイドルをお呼びしてにぎやかな懇親の場を設営しており、第5分区内の友情の輪を広げて頂きたい旨の挨拶が行われました。

講演会では、スノーエンジニアの伊藤 親臣博士より、「利雪最前線 2023」～雪国らしい SDGs な社会を目指して～との演題で、寒冷期の降雪を雪室保管することで、雪冷熱エネルギーの冷熱源として貯蔵し、温暖期の施設冷房や物品冷蔵保存のエネルギーとする最新の技術・事例を紹介して頂き、また、雪冷熱を生かした食品の開発に取り組んでおり、雪国の地域性を生かした、エシカルで環境にやさしい雪室食品による産業化、ローカルで身近な雪を雪冷熱エネルギーとして応用し、地域創生に資すると共に、雪国が SDGs の分野で世界をリード出来るとのことをお話を頂きました。

会場を移しての懇親会では、上村 宏ホストクラブ会長の挨拶、原信博ガバナー補佐の乾杯で開始され、途中のアトラクションでは大いに盛り上がっていました。最後に次期 IM 開催クラブの柏崎東 RC 関 雅生会長の挨拶があり、「手に手つないで」では参加者全員で一つの輪を作り皆が一体となり、高橋 宏幸 IM 副実行委員長の閉会の言葉で閉会致しました。







南雲博文ガバナーエレクト結団式

国際ロータリー第 2560 地区
南雲年度地区幹事

阿部 修靖 (長岡 RC)

2023年9月10日(日)、長岡グランドホテルにて南雲博文ガバナーエレクトの結団式が米山ガバナーはじめ、パストガバナー、南雲年度各分区ガバナー補佐、第5分区各クラブ会長及び幹事など総勢57名のご列席のもと執り行われました。

開式後、南雲博文ガバナーエレクトからの挨拶では、地区研修委員会の活動に対して、当地区が更にスキルアップして、ロータリーをより深く理解され、会員増強、親睦と奉仕が深まることを大いにご期待をしている内容がありました。また、結団式は、ジェットコースター発進のスイッチをオンにすると例えられ、皆様と一緒に最も効果的な高さを作りゴールを目指したいと力強く決意を述べられました。

その後、ご来賓の皆様全員をご紹介させていただき、ガバナー米山忠俊様、直前ガバナー高橋秀樹様、パストガバナー高尾茂典様より心温まるご祝辞を賜りました。そのお言葉にスタッフ一同感謝とともに身が引き締まる思いとなりました。その後、結団式閉会の言葉として、私たちスタッフの相談役でもあります、長岡 RC 鈴木重彦パストガバナーよりご参列の方々に御礼のご挨拶をいただきました。結団式を滞りなく納めることができましたことに対し、ご参列の皆様にご心から感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

次に祝宴の運びとなり、パストガバナー佐々木昌敏様よりご祝辞をいただきました。その後乾杯に移り、パストガバナー渡辺敏彦様より激励のお言葉と乾杯のご発声をいただき祝宴がスタートいたしました。

祝宴では、ご参列の皆様より心強い応援のお言葉をいただき、スタッフ一同「頑張ろう」という強い決意を持たせていただきました。宴も盛り上がり、まだまだ心残りではありましたが、中締めをパストガバナー大谷光夫様から賜り、結団式を締めさせていただきました。

南雲博文ガバナーエレクト、スタッフ一同、この結団式を機に国際ロータリー第 2560 地区が益々隆盛を保ち、室賀年度、さらにはその次の年度まで永続的に発展する様頑張る所存でございますので、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。





第3分区 IM 開催の報告

第3分区ガバナー補佐

山田 道夫 (新津中央 RC)

残暑厳しい中、今夏日本一の記録的は高温を数回記録した、自然豊かな秋葉区の割烹一楽さんで、去る9月16日(土)に第3分区 IM が開催されました。第3分区5クラブから57名の多くのロータリアンの皆様からご出席を頂きました。

式典の中では IM の目的に沿って、私の方からこれ迄にクラブ協議会、米山ガバナー公式訪問を終えた白根ロータリークラブ、村松ロータリークラブ、新津ロータリークラブの今年度の方針や現況について紹介させて頂きました。3クラブの一番の共通課題が会員増強、退会防止についての対応でした。それぞれさまざまな手はずを地道に検討し、実行に移していきたいという内容を報告させて頂きました。

また、かねてからの第3分区の懸案である分区編成についての要請もありました。そして、今回会場には残念ながら米山ガバナーからご来訪頂けなかった事に対して、非常に残念だったという声も多く聞かれました。

記念講演として、元 NHK 新潟放送局キャスター、元 TeNY テレビ新潟放送網アナウンサー、「足寿命アドバイザー」林 妙様より「足寿命ウォーキング、人生の最後まで自分の足で元気に歩く方法」と題して講演を頂きました。講演の途中から高齢者や女性メンバーも勿論、会場の全てのメンバーが靴を脱ぎ、また靴下を脱いで素足で真剣に足指は勿論の事、足全体を動かすという健康に良い実体験をさせて頂きました。私はメンバー全員の熱心な一連の行動を見て、大きな驚きと感動を受けました。懇親会の席ではアトラクションとして、えのもとくみこさんによる2回にわたるソロコンサートが開催されました。途中メンバーの男女が入り混じりダンスを踊っている様子も見られて、大変和やかな雰囲気第3分区のより一層の一体感を強く感じる事が出来ました。分区メンバー全員の皆様に感謝申し上げます。第3分区最高!!





地区研修委員会の活動について

地区研修委員会
地区研修チーム
リーダー

高橋 秀樹 (新潟 RC)

近年のロータリー会員数の動向を踏まえて、国際ロータリー理事会は、これまで以上に、会員がロータリーについて理解を深め、その活動を発展させることができるように、研修活動の重視とその手法の改革を強く打ち出しました。

座学中心の研修だと、どうしても要点の理解や知識の定着の効率が伸びないので、対面式の研修では、参加者が発言したりディスカッションを行ったりする内容を中心に据え、必要な知識については、事前に様々な形で資料を配布・配信するように手配する、という方式を強く推奨するそうです。

この国際ロータリー理事会の決定は、国際ロータリーの Director Learning & Development であるサラ・ラミヤン氏により、7月1日付で全世界に通知されました。

日本でも、9月6日に東京で「地区研修リーダーのためのセミナー」が開催され、全国に向けて上記方針の伝達と推奨が進められました。

当地区において、既に2年前から研修制度の改革を準備してきたことは、かねてから皆様にお知らせしてきた通りですが、当地区で検討してきた内容は、上記の国際ロータリーの方針と合致する部分が多く、地区研修委員会の活動にも大いに弾みがついています。

去る8月19日には、アシスタントガバナーエレクトの研修パート1が行われ、10月1日にはそのパート2が行われますが、そのあとも、次々と研修が計画されています。単なる座学だけの研修ではなく、参加者が積極的に発言していく機会を充実させていく予定です。

クラブと地区を活性化させていくため、ぜひ御理解、御協力をお願い申し上げます。



「世界でよいことをしよう」 財団委員会通信



2023-24年度国際ロータリー第2560地区 第1回財団セミナーが開催される

開催日 2023年8月26日（土）13:30～16:30

会場 長岡グランドホテル

参加者 ローターアクトクラブ3名を含む50クラブ106名

当日の次第&参加者の真剣な眼差しをご覧ください。

次 第

(敬称略)

- | | | | |
|-----------|-----------------------------------|----------------------------|---------|
| | 司会・進行 | ： 近 恵子 | 中条胎内RC |
| 1. 13:30～ | 挨拶 | 第2560地区ガバナー： 米山 忠俊 | 三条北RC |
| | 挨拶 | 第1地域ARRFC： 新保 清久 | 新潟万代RC |
| | 挨拶 | 第2560地区ロータリー財団委員長： 佐藤 真 | 村上岩船RC |
| | 挨拶 | 第2560地区社会奉仕委員長： 三本 進一 | 見附RC |
| 2. 13:42～ | 出席者紹介と本日のスケジュール | 第2560地区ロータリー財団副委員長： 野崎 喜一郎 | 三条RC |
| 3. 13:45～ | 表彰
高額クラブ感謝状授与 | 第2560地区ロータリー財団委員長： 佐藤 真 | 村上岩船RC |
| 4. 13:55～ | 地区補助金・奉仕プロジェクト事業 | 補助金委員長： 稲葉 忠克 | 新潟西RC |
| | 事例発表 | | |
| | 【1】青少年協働意識育成プロジェクト『思い出の中庭整備』 | 小林 和也 | 水原RC |
| | 【2】水芭蕉生息地環境整備（遊歩道整備） | 杉山 太三郎 | 巻RC |
| | 地区補助金に関する質疑応答 | | |
| 5. 14:40～ | 休憩（15分） | | |
| 6. 14:55～ | グローバル補助金事業 | 補助金副委員長： 武田 真 | 水原RC |
| | 事例発表 | | |
| | タイ国におけるグローバル補助金事業「ドイ・ジョラケ丘陵の環境保全」 | 大澤 力 | 新潟西RC |
| | グローバル補助金奨学生について | 奨学金・学友会・VTT委員長： 大竹 賢一 | 三条東RC |
| | 体験談発表 | | |
| | 学友の体験談発表 | 2019-20年度地区奨学生： 高橋 映華 | 推薦：三条RC |
| 7. 15:35～ | 寄付金・基金・ポリオプラス・ロータリーカード等について | 寄付・資金・ポリオプラス委員長： 高坂 光一 | 高田RC |
| | 【1】財団寄付目標達成への協力要請 | | |
| | 【2】ポリオプラス寄付目標達成への協力要請 | | |
| | 【3】ロータリーカード作成への協力要請 | | |
| | 取組発表 | | |
| | 【1】財団寄付推進取組について | 高尾 茂典 | 新潟中央RC |
| | 【2】ポリオプラス寄付推進取組について | 豊島 善 | 糸魚川中央RC |
| 8. 16:20～ | 資金管理について | 資金管理委員長： 水本 孝夫 | 新潟東RC |
| 9. 16:25～ | 閉会の辞 | 第2560地区ロータリー財団副委員長： 鈴木 孝二 | 新発田中央RC |





第 2560 地区 2023-24 年度 8 月末 会員数報告

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2023年 7月1日	8月末 会員数	うち女性 増減		
第1分区(9クラブ)				-	378	380	37	2
		3	31.5%	89	89	1	0	
		4	17.9%	39	39	9	0	
		4	29.0%	31	31	1	0	
		4	100.0%	48	48	3	0	
		4	21.6%	38	37	3	-1	
		3	16.0%	25	25	2	0	
		4	4.2%	45	48	5	3	
		4	52.8%	37	36	7	-1	
		2	22.2%	26	27	6	1	
第2分区(9クラブ)				-	436	448	30	12
		4	29.8%	78	84	3	6	
		3	16.4%	61	61	7	0	
		4	33.3%	114	117	7	3	
		3	80.0%	5	5	0	0	
		4	47.6%	40	42	2	2	
		4	13.9%	36	36	3	0	
		3	35.1%	37	37	1	0	
		4	30.4%	22	23	0	1	
		4	51.2%	43	43	7	0	
第3分区(5クラブ)				-	91	92	5	1
		4	20.0%	15	15	1	0	
		4	46.2%	12	13	0	1	
		5	28.1%	32	32	1	0	
		4	38.5%	26	26	3	0	
		3	0.0%	6	6	0	0	
第4分区(11クラブ)				-	364	367	28	3
		4	8.9%	53	56	0	3	
		4	7.5%	39	40	3	1	
		4	6.9%	29	29	4	0	
		3	17.1%	42	41	2	-1	
		4	71.0%	31	31	4	0	
		3	5.0%	20	20	1	0	
		3	3.6%	28	28	3	0	
		4	9.6%	52	52	2	0	
		4	7.4%	27	27	3	0	
		4	14.3%	6	6	2	0	
		4	5.4%	37	37	4	0	

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2023年 7月1日	8月末 会員数	うち女性 増減		
第5分区(7クラブ)				-	287	298	30	11
		3	68.8%	46	48	4	2	
		4	2.4%	42	43	0	1	
		3	24.1%	54	59	8	5	
		3	20.0%	40	40	2	0	
		3	14.3%	21	21	1	0	
		3	17.6%	48	51	4	3	
		4	25.0%	36	36	11	0	
第6分区(6クラブ)				-	125	123	12	-2
		3	32.3%	31	31	4	0	
		4	9.7%	31	29	3	-2	
		4	15.4%	26	26	3	0	
		3	0.0%	15	15	1	0	
		3	21.4%	14	14	1	0	
		4	12.5%	8	8	0	0	
第7分区(7クラブ)				-	309	311	21	2
		3	31.9%	68	70	4	2	
		3	36.1%	72	72	6	0	
		3	12.5%	32	33	1	1	
		4	95.2%	43	42	3	-1	
		3	63.9%	36	36	3	0	
		3	56.0%	25	25	0	0	
		3	81.8%	33	33	4	0	

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,990 人
7月末会員数	2,019 人
女性会員数	163 人
純増減会員数	29 人
My Rotaryアカウント登録率	28.9 %

地区主要行事予定

2023年9月25日現在

年 月 日		行 事		会 場	
2023年 (R5) 米山年度	10月	地域社会の経済発展月間・米山月間			
		1	(日)	南雲年度第2回ガバナー補佐会議・ガバナー補佐研修パート2	まちなかキャンパス長岡
		7	(土)	第1回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルイタリア軒
		7	(土)	青少年交換帰国報告会・受入学生交流会	ホテルイタリア軒
		12	(木)	米山年度 地区大会記念親睦ゴルフ大会 (第4分区は10月11日)	湯田上カントリークラブ
		14	(土)	第1分区IM (長谷川G補佐・新発田城南)	月岡温泉 ホテル清風苑
		20	(金)	第8回日台ロータリー親善会議 台北大会	台北・マリオットホテル
		21	(土)	ライラ研修	ホテルオークラ新潟
	28	(土)	第7分区IM (前川G補佐・直江津)	ホテルハイマート・ホテルセンチュリーイカヤ	
	11月	ロータリー財団月間			
		4	(土)	米山年度 地区大会1日目 / RI会長代理歓迎晩餐会	燕三条ワシントンホテル
		5	(日)	米山年度 地区大会2日目	燕三条地場産業振興センター
		11	(土)	米山記念奨学生学友会総会	ホテルオークラ新潟
		19	(日)	ロータリー財団地域セミナー	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	第2回ガバナー会議	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	RI会長歓迎晩餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	メジャードナー午餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	第2回ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)、ガバナーノミニー研修セミナー (GNTS)	神戸ポートピアホテル
		21~22	(火~水)	第52回ロータリー研究会	神戸ポートピアホテル
		25	(土)	高額寄付者感謝の集い	ホテルオークラ新潟
未定			2024-25年度長期派遣学生選考試験		
未定		防災対応意見交換会	新潟市		

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
豊栄	高橋 一彦	2023.07.01	木崎運送(株)	代表取締役	運送業
豊栄	羽賀 睦	2023.07.01	(株)暁工業	代表取締役	設備工事・管工事業
新潟中央	長谷川 智	2023.08.08	新しん不動産合同会社	代表社員	不動産売買
新潟南	長岡 隆太	2023.08.23	アサヒビール(株) 新潟支社	支社長	ビール醸造
新潟南	高橋 与平	2023.08.23	(株)吉池	取締役	食料品販売
新潟西	松崎 孝之	2023.08.24	ホテル日航新潟	常務取締役	ホテル
長岡東	室井 佑月	2023.08.30	(有)佑月・インターナショナル	代表取締役	執筆業
新井妙高	赤塚 和則	2023.08.30	日本曹達株式会社二本木工場	執行役員二本木工場長	薬品製造
豊栄	曾我 賢一	2023.09.01	(株)テクノナガイ	会社役員	設備工事業
巻	佐藤 幸夫	2023.09.01	(株)マルソーロジテック	秘書	物流



感動探しのロータリー



第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 辻 正敏 (津 RC)

「ロータリーって知ってる?」、「うん、毎週平日の昼間に集まって美味しい御飯食べている人たちでしょ!」。「お金持ちで、時々どこかに寄付したりしている人たちでしょ」、「私たちとは関係ない人達よね」。このように言われている、また実際にこのような話を聞いた方がみえると思います。こんな風に話してみえる方々との違いは何なのでしょう。私たちもこの方たちも食事はします。しかし一般の方（この言い回しがそもそも物議を醸しますが）で、毎週お昼御飯をホテルやレストランで食べる方は少ないと思います。つまりロータリー会員のような人は全体から見れば少数です。普通の人たち（多様性が叫ばれる中、あえてこの表現を使いますがロータリー等に属している人以外を指しています）にとって、ホテルでの食事は日常ではありません。非日常です。昼間から集まって歌を歌うこともありません。

私が青年会議所に入会させていただいた時、国歌を歌い、JCソングを歌うことには最初馴染めなかったことを思い出します。「なんだこれ!」です。それがいつの間にか日常になりました。ですからロータリーに入会の時も別段変わったものとの認識はありませんでした。すべては慣れです。毎週同じクラブの会員と交流し、例会時間が終わった夜には出直してまた飲みに行く。楽しいです。これが日常になってしまいます。どんどん前述の普通の人たちとは離れていきます。その上、こちらの方が普通と思い出すかもしれません。つまり非日常的になってしまっている自分の過ごし方が日常なのです。

普通の方とは異なる視野、視座、視点でものを見ます。最も今まで知ることの無かったところを非日常的な目によって見えてしまうこともあります。ちょっと視野が広がった感じになりますが、見えなくても良いことかも知れません。しかしその見えなくても良かった部分が日常になってしまったら、もう普通の人、普通の感覚ではなくなっているのではないのでしょうか。遠い国で食べ物が無くて泣いている子どものニュースに食料や物資を送る。とても崇高な気持ちです。ちょっと待って。日本にはそのような子供はいないのですかと言ったら、今、日本の子どもの貧困が問題だと言います。子どもの貧困への対応を目的として活動するロータリークラブもできています。普通の人たちが非日常と感じる部分をロータリアンは知らず知らずのうちに日常としていることに気が付かないといけないのではと思います。ロータリーを理解して欲しい、公共イメージを向上させ、認知度を向上させたいと考えるなら、先ず自分を見つめ直し、普通の、普通の、普通に戻ってみることも必要なのではないでしょうか。そして、ロータリーで得た感覚を大切にして、より幅の広い人となった時、新しい感動に出逢える機会が増えるのかも知れません。感動できるロータリーを退会する人はいないと思います。普通の自分に戻って、感動探しのロータリーで活動してはどうでしょう。



連呼の意義



第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 神野 正博 (七尾 RC)

国政選挙から地方議会議員選挙といかに民主主義のためとはいえ、毎年のようにお騒がせイベントがある。血沸き肉躍る御仁もいれば、「うるさい！」と顔を背ける御仁もいる。何がお騒がせかと言えば、小さな単位の選挙であればあるほど選挙カーという街宣車が、候補者名を拡声器でただただ連呼するからである。

本来、選挙では候補者の公約や政策に共感することで一票を投じるはずだ。名前を連呼する意味はあるのか。一方で、演説会ではなく、街中を疾風のように走る選挙カーで、政策は伝わるのか。。連呼するの意味は、名前を知って欲しい、名前を入口として候補者自身に関心を寄せてほしいの一心なのだ。

そんな折、最近気になるテレビ CM が増えてきた。それは、われわれ消費者の購買意欲を掻き立てるような従来型 CM ではないものだ。食品、化粧品、家電、日用品、衣類から車、住居などの消費財、さらには携帯キャリアや銀行などサービスを提供する企業などの CM は消費者に選んでもらうブランドを訴え、買うことによって得であろう豊かな経験を訴える。これに対して、消費者が購入した品物の中に秘かに使われている素材を作る企業や道路・橋脚などの大型公共工事企業など消費者が直接発注することはない企業の CM がある。こういった企業が一般向けに CM を流す意義がどこにあるのだろうか。

例えば、カリスマ経営者、永守重信氏が率いるニデック（今年4月に日本電産より社名変更）の CM も人気女優を使って社名を連呼する。CM からは何を作っているのかわからない。私たちが日常使う携帯、デジカメ、車やロボットなどに搭載されている最先端の超小型モーターやセンサーを作る。私たちはこの会社名を知ることなく恩恵に浴している。

社名を連呼する意義は、選挙における候補者と同じく名前を知って欲しいのだろう。それは、直接注文を受けることではなく、企業イメージの向上、社員の誇りやリクルートのためでなかろうか。人手不足の中で、自らのパートナーや子供たちが就職する企業が誰も知らないのでは不安だ。会社名こそが、ブランド資産であり、まずはそのブランドが誰もの目に留まり、口に上ることが重要だ。そのあと、関心を持った人間が、より深まって中身を知る。選挙の連呼による入口戦略と同じということになる。

日本には隠匿の精神があった。しかし、自らに誇りを持ち、そして仲間を増やすためには、自らの企業名を前面に出す入口戦略が重要な時代のようなのだ。ロータリーも然りである。会員が誇りを持ち、社会から関心を持ってもらうため、仲間を増やすためには、Rotary を露出しよう、連呼しよう。



第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 中野 均 (堺東 RC)

第3地域ロータリー財団コーディネーター補佐を前任者四宮孝郎氏より引き継ぎを受けました中野均 (RID2640 堺東 RC) でございます。四宮氏とは、同期ガバナー(2019-20年度)でございまして、四宮氏ほどの力量はございませんが、第3地域永田ロータリー財団地域コーディネーターの下、与えられた任務を全うしたく取組ませていただく所存でございます。

日本のロータリークラブ全てで取り組んでいます年次基金寄付ゼロクラブ「0」ですが、当地区において、ゼロクラブを発生させてしまいましたことを深くお詫び申し上げます。今年度こそ発生させないよう既にガバナーとともに行動しています。

日本のロータリーとして今年度も同様の取り組みがなされます。第3地域内ロータリークラブの皆さまには、前年と同様にご理解願ひ、なるべく早く寄付金の送金をしていただきますよう宜しくお願い申し上げます。なお、この地域には、3人の補佐がいます。私は、福井県を含む近畿地方4地区(2640,2650,2660,2680)を担当させていただきます。1年目の補佐ですが、担当地区内の皆さまにお役に立てるよう努力させていただきます。

ロータリー財団を取り巻く環境は、種々ございますが、この NEWS が発行される翌月10月は、24日が世界ポリオデーです。既にこの日に向けて効果的なイベントを計画されていることと思います。私たちロータリアンは、ポリオ根絶 PR や募金活動をするにもポリオについて認識を正しく持ち、そして理解しなければなりません。その上で地域住民の方に理解して貰う活動をしていただくこととなります。期間は、この日のみにとらわれず、ある程度の期間を通じて活動することもあり、是非、行動を起こしていただきますようお願い申し上げます。PRの方法として、SNS や YouTube 他メディアを利用して実施されている地区やクラブもあり、可能な限りこのような方法で広報していただければ、ロータリークラブの認知度向上に繋がると信じています。また、場合により、ロータリー公共イメージコーディネーターのお力を借りることも良いのでは。と思う次第でございます。

ポリオ根絶が目前となりました。各地区・クラブのポリオ根絶に向けた活動をガバナー、地区財団委員長とともに実施して参りましょう。併せて活動報告も楽しみにしています。



1. 理事会と評議員会を開催

8月22日に第40回理事会を都内会議室にて開催しました。当日は、全国から30人の理事、3人の監事、計33人の出席となりました。若林紀男理事長が議長として進行役を務め、第1号～第10号の全ての議案につき、原案通り承認可決されました。



第40回理事会の主な議案は、「評議員候補者」「理事後任候補者」「定款変更」「2022年度事業報告」「2022年度計算書類」「2023年度収支予算書一部修正」「2023年度専門委員選任」の件、などでした。

また、9月7日には第15回定時評議員会を開催しました。今回の定時評議員会は台風接近の

影響を懸念し、ハイブリッド形式で開催されました。全国から評議員25人（うち4人がオンライン）、役職理事6人と監事3人が出席しました。定款により、評議員会の議長は、出席評議員の中から選ばれることになっており、第2750地区の猿渡昌盛評議員が議長に選出されました。

猿渡議長の進行で、報告事項として、①理事会決議報告 ②職務執行の状況報告 ③2022年度事業報告が資料に基づき説明され、続いて理事会から上程された「評議員の選任」「後任理事の選任」「定款変更」「2022年度計算書類承認」など7議案が諮られ、全て原案通り承認可決されました。また、評議員会終了後、4年の任期を終える評議員に、若林理事長から感謝状が贈呈されました。



2. 学友の力を母国に還元 「教育プログラム」開催

8月26日、マレーシア米山学友会の主催で、第1回「MRYA（マレーシア米山学友会）教育プログラム」がオンラインで開催されました。このプログラムは、同学友会会員の個々の知識や技術を社会に還元していくこと、受講者に社会貢献への意識を高めてもらうことを目的としています。

今回は「日本語をボランティアで教える人材育成」をテーマに、日本の総合商社で18年勤務し、10年以上にわたってマレーシアの学生に日本語をボランティアで教えている経験豊富なチンワエンサンさん(1994-96/東京国分寺RC)



が講師を担当。参加した20人の受講者に向けて、「どのように学生の興味を惹くか」「どのように学習意欲を引き出すか」「どのようにリーディングやスピーキングの技

術を習得させるか」など、日本語を教えるために必要な基礎スキルについて約1時間半の講義を行いました。マレーシアの中学・高校には日本語クラブが多数存在しており、同学友会では、「日本語学習や日本文化への興味関心が強い学生たちの力になりたい」という思いで精力的に活動を行っています。

3. まもなく米山月間資料が届きます (9/20 発送)

10月はいよいよ米山月間です。今年も米山月間資料を全国の皆さまへお届けします。

毎年恒例の『豆辞典』は、米山記念奨学事業についての情報がほぼ網羅されている小冊子です。会員数分お送りしますので、ぜひ1人1冊お手元にお持ちください。豆辞典を使って米山奨学事業を説明するためのパワーポイントは、

9月13日に当会HPでも公開しました。そのほか「クラブ米山記念奨学委員長の手引き（寄付金マニュアル合併版）」「2022年度事業報告書」「2022年度決算報告」を送付します。追加資料のお申し込みは、同封の「追加資料申込書」に記入の上、お送りください。

4. 寄付金速報 — 10月の米山月間に向けて —

前年同期比

+ 36.5%

普 - 2.6% 特 + 113.6%

8月までの寄付金は、前年同期と比べて36.5%増（普通寄付金:2.6%減、特別寄付金:113.6%増）、約1億670万円の増加となりました。当会は内閣府

より「公益財団法人」の認定を受けており、当会への寄付は所得税、法人税の税制優遇が受けられ、相続税も非課税となります。今年度からは、特別寄付金が新たに50万円に達した方へペンバッジ（銀色）を贈呈します。10月の米山月間も引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

5. モンゴルの地で感じた米山奨学事業の成果

先月5日に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」では、多くの学友とロータリー会員が再会を喜びあう場面が見られました。今回は、モンゴルの地で学友と「再会」を果たした会員の話を紹介します。

7月1日、国際ロータリー第2680地区淡路三原RCの国際奉仕委員長を務める奥井正造会員が、モンゴル米山学友会のパグワ・ボヤンジャンルガルさん（2016-19/淡路三原RC）を訪ねるため、5人の会員と共にモンゴルを訪れました。

奥井会員とボヤンさんとの出会いは、同クラブが2016年に世話クラブとなったこと。当時、日本へ来た理由を尋ねると、「博士号を取得して保健師になりたい。モンゴル人は朝昼晩ずっとお肉を食べるため、中高年になると肥満になり、長生きできない。医療の力で生活習慣病を改善し、モンゴル人の平均寿命を5歳延ばしたい」とのこと。この志の高さに感銘

を受けた奥井会員やクラブ会員たちは、その時からずっと彼女を熱心に応援してきました。

そして今回、奥井会員はモンゴルでボヤンさんと再会。時間を忘れるほど話が弾んだそうです。招待されたボヤンさんの家では、お母さんがとても嬉しそうに出迎えてくれ、家族勢ぞろいで机いっぱい料理が並び、盛大な会となったそうです。

帰国した奥井会員は、「私は、日本で自らの力を高め、自国の発展の力になりたいと志す奨学生を応援することが米山奨学事業の醍醐味だと考えています。その成果をモンゴルで見せてもらえました。学友会に入会し、日本との絆を保と



うとしている学友たちの健気さが心に響きました。そして、私たちロータリアンが思っている以上に、学友のご家族は米山奨学事業に感謝しているんだな、と感じました」と、ボヤンさんたちと過ごした時間を振り返りました。